



EU・NATO加盟国、イノベーション・ハブであるブルガリアとの関係を、「**戦略的パートナー**」に格上げ。

総論（前文）

- ◆ 100年以上の伝統的友好関係を礎に、新たな国際情勢の下、ブルガリアと法の支配に基づく国際秩序の重要性、欧州とインド太平洋の安全保障は不可分であるとの共通認識を確認。

1 政治・安全保障対話

- ◆ ロシアによるウクライナ侵略、核の使用の威嚇、露朝軍事協力を非難。両国によるウクライナ支援をそれぞれ評価。
- ◆ 海洋国家として、国連海洋法条約の重要性を再確認。
- ◆ 北朝鮮の核・ミサイル開発を強く非難。完全な、検証可能な、かつ不可逆的な方法での廃棄(CVID)へのコミットメントを改めて表明。暗号資産窃取を含む悪意あるサイバー活動への対処の必要性を強調。拉致問題の即時解決を要求。
- ◆ 東シナ海・南シナ海、世界のどこであれ力又は威圧による一方的な現状変更の試みに反対。
- ◆ 自由で開かれたインド太平洋の実現に向けた協力や同地域での日EU・日NATO間協力への支援を確認。
- ◆ 防衛・安全保障面での協力拡大で一致。サイバーセキュリティ協力の重要性を再確認。
- ◆ ブルガリアは、日本によるこれまでのODAを評価。
- ◆ 両国による対西バルカン協力、特に防災分野における協力の実績と重要性を再確認。双方の協力拡充の方途を検討。

2 経済、ビジネス、研究開発、イノベーション

- ◆ 経済関係拡大を決意。WTOを中核とする、自由で、公正な、ルールに基づく多角的貿易体制の維持・強化を支持し、経済強靱性・経済安保での協力を確認。
- ◆ 持続可能な連結性、質の高いインフラの原則の堅持。エネルギー・環境分野等の協力強化の可能性を確認。
- ◆ 地域のイノベーションハブを目指すブルガリアとデジタル化・ICT分野の協力強化に向け、具体的に行動することを確認。
- ◆ 理研とINSAIT、筑波大学とGATEの協力の成功例を踏まえ、産業・科学技術分野の協力促進を決意。
- ◆ チャイラ水力発電所案件を含むエネルギー分野及び観光分野での協力促進で一致。

3 文化、教育、人的交流

- ◆ 言語教育、文化、留学生、地方、メディア、スポーツ交流等の重要性を再確認し、協力を歓迎。
- ◆ 文化遺産保護協力の意欲を表明。佐渡島の金山の世界文化遺産登録へのブルガリアからの支援に謝意。

4 地球規模の課題

- ◆ SDGs、防災・減災、NPTの維持・強化等の地球規模の課題の重要性を再確認し、協力を歓迎。